

見学(体験)できる伝統工芸品

様々な伝統工芸品を見たり、ふれたりできる場所を紹介します。
しょうかい
 情報は2016年8月現在のものです。

南部鉄器

■岩鑄鉄器館

南部鉄器の展示ギャラリーと実際の作業工程を見学できるテーマパーク型工場
 料金: 無料 営業時間: 08:30~17:30 定休日: 火曜日、12/31、1/1
 所在地: 岩手県盛岡市南仙北2丁目23-9 連絡先: 019-635-2505



■及源鑄造株式会社

解説を聞きながら、15分ほどで各工程を見学する工場見学(前日までに要予約)
 料金: 無料 見学可能時間: 平日13:30~16:00 (最終見学時刻15:45)
 所在地: 岩手県奥州市水沢区羽田町字堀ノ内45番地 連絡先: 0197-24-2411



■盛岡手づくり村

いくつかの工場のほか、予定日(webで公開)に行けば「鑄込み」を見学可能
 料金(入村料): 無料 開村時間: 08:40~17:00 定休日: 12/29~1/1
 所在地: 岩手県盛岡市繫字尾入野64-102 連絡先: 019-689-2201



■滴生舎

浄法寺塗の展示や作業を見学でき、漆絵付体験教室(要予約・有料)もある
 料金: 教室は要相談 営業時間: 08:30~17:00 定休日: 年末年始、1~3月の火曜日
 所在地: 岩手県二戸市浄法寺町御山中前田23-6 連絡先: 0195-38-2511



■有限会社翁知屋

箸やコースターなどで秀衡塗を体験する体験工房「Kuras」(要予約・有料)を展開
 料金: 要相談 営業時間: 09:00~18:00 定休日: 水曜日
 所在地: 岩手県西磐井郡平泉町衣関1-7 連絡先: 予約・相談はwebから



■浄法寺塗製造元 (株)うるみ工芸 ショールーム

盛岡市内のショールームで1時間程度で汁椀の絵付体験(要予約・有料)が可能
 料金: 1,500円~ 営業時間: 10:00~18:00 定休日: 年末年始
 所在地: 岩手県盛岡市中央通2丁目9-23 連絡先: 019-654-4615



■一人一芸の里 おおのキャンパス木工房・木工体験室

スプーンなどの小物から本格的な木の器まで、大野木工の職人の指導で体験可能
 料金: キーホルダー650円など 営業時間: 09:00~17:00
 所在地: 岩手県九戸郡洋野町大野58-12-30 連絡先: 0194-77-3202



■南部古代型染 蛭子屋 小野染彩所

店舗2階に南部古代型染の材料や型紙、資料が展示、工程の説明も聞くことが可能
 料金: 無料 営業時間: 08:30~18:00 定休日: 12/31~1/4
 所在地: 岩手県盛岡市材木町10-16 連絡先: 019-652-4116



■ホームспан 中村工房

ホームспанの製品や工房内見学のほか、手紡ぎなどの体験(要予約)が可能
 料金: 要相談 営業時間: 10:00~16:00 定休日: 日曜日
 所在地: 岩手県盛岡市高松3丁目2-15 連絡先: 019-661-5277



その他

伝統工芸品づくりに魅せられた若者たち

世界に広がる いわての伝統工芸

IWATE



岩手県の伝統工芸の | 魅力 | と | 歴史 |

岩手県ではうるしが縄文時代から使われていたことが遺跡の発掘でわかっています。また、奥州藤原氏が栄えていた時代、南部鉄器や秀衡塗などの生産が始まっています。いまに伝わる伝統工芸にどのようなものがあるか、見てみましょう。

※伝統工芸品…長年にわたり受け継がれている技術や技法を用いてつくられた工芸品の総称。一部の伝統工芸品は、経済産業大臣により「伝統的工芸品」に指定されている(下記囲み参照)。

◎ 岩手県内の主な伝統工芸品地図 ◎



いわや どうたんす 岩谷堂筆筒
盛岡市、奥州市

起源は、藤原清衡が奥州を支配していた1100年代と言われています。うるしがぬられ、金具のついた現在の形になったのは、1820年代(江戸後期)のことでした。



あっぴぬり 安比塗
八幡平市

かつては浄法寺塗の産地でした。「安比塗」という新ブランドを立ち上げ、漆器職人を育成し、素朴で美しい漆器を製造しています。

おおのもっこう 大野木工
洋野町

町おこしのための「一人一芸」運動で、木工が盛んになりました。手づくりの給食器が特に人気で、全国160か所をこえる保育園の園児に使われています。



じょうぼうじぬり 浄法寺塗

二戸市、八幡平市、他
平安時代、天台寺の僧侶が普段使う器をつくったのが始まりです。江戸時代には他の藩にも販売していました。



なんぶこだいがたぞめ 南部古代型染
盛岡市

江戸時代初期から、南部藩の武家の衣類に用いられた染物です。そのころ使われた型が現在も保存されており、そのデザインと昔ながらの技術を用いて現代に合う製品をつくっています。



なんぶてっき 南部鉄器

盛岡市、奥州市
奥州市では約950年前、盛岡市では約400年前からつくられています。今ではなべや鉄びんだけでなく様々な製品がつくれ、海外でも人気です。



ひでひらぬり 秀衡塗

一関市、平泉町、他
中尊寺金色堂を代表とする仏教文化を平泉にもたらした奥州藤原氏に起源を発する漆器です。



(写真提供: (一財) 伝統的工芸品産業振興協会)

ホームスパン

盛岡市、花巻市
スコットランド・アイルランドの手織りの毛織物で、明治時代にイギリス人宣教師によって広められました。



まだまだある!
岩手県内の
伝統工芸品

- 紫根染(盛岡市)
- 南部製織(盛岡市、他)
- 小久慈焼(久慈市)
- 台焼(花巻市)
- 竹細工(一戸町)
- あけびづる細工(西和賀町)
- こけし(盛岡市、花巻市、西和賀町)
- 花巻人形(花巻市)
- 久慈琥珀(久慈市)
- マリンローズ(野田村)
- 東山和紙(一関市)
- 成島和紙(花巻市)
- 南部箒(九戸村)
- 紫雲石硯(大船渡市、一関市)
- 大漁旗(大船渡市)
- 太鼓(大船渡市、他)
- 木工品(遠野市、他)

経済産業大臣指定 伝統的工芸品とは?

①主に日常生活に使われている、②製造過程の主要部分が手作業、③伝統的技術・技法によってつくられる、④伝統的に使用されてきた原材料を使う、⑤一定の地域が産地になっている、の条件を満たしたものを経済産業大臣が指定しており、岩手県では次の4つが指定されています。

 [南部鉄器] 1975(昭和50)年2月17日指定	 [岩谷堂筆筒] 1982(昭和57)年3月5日指定
 [浄法寺塗] 1985(昭和60)年5月22日指定	 [秀衡塗] 1985(昭和60)年5月22日指定 (写真提供: (一財) 伝統的工芸品産業振興協会)

Let's try!
伝統工芸品づくりを体験

南部鉄器

南部鉄器の
技と美しさを
学んでください！



指導してくれた
職人さん
岩鑄
吉田真也さん



職人さんが
使っている道具も
気になります。

どんな風に南部
鉄器が作られているのか
とっても楽しみです！

南部鉄びんの製造工程

デザインと木型の製作



START!

どのような鉄びんにするかデザインします。それを実寸大の図面にし、鉄びんの断面である木型をつくります。(昔は木で作っていましたが、いまはほとんど鉄製です)



鑄型の製作



鉄びんの大きさに合った素焼きの型に川砂や粘土などを混ぜたものを入れ、木型を回して鑄型をつくります。最初は荒目の砂でひきます。適当に乾燥させて中びきをします。最後に仕上げびきを行い、きめの細かい、きれいな面にします。

文様おし



つくった胴型が乾燥しない間に文様をおします。先を円錐形にとがらせたあられ棒などで一つ一つ、ていねいにおします。

着色



最後に鉄びんの表面にうるしをぬります。黒うるしを使うと黒い鉄びんができ、紅がらうるしを使うと茶色の鉄びんができます。

型出し



鉄が固まったら鑄型から出します。そして、中子の砂を落とします。

鑄込み



1400度から1500度に溶かされた鉄を「湯汲み」と呼ばれるひしゃくに入れ、鑄型に注ぎ込みます。

中子づくりと鑄型の組み立て



南部鉄器づくりの魅力

80くらいの工程があり、根気のいる細かい作業です。デザインから完成までの作業を一人前にできるようになるには約10年かかると言われ、先輩たちがつくった製品はととも美しいです。先輩たちの技術を受け継ぎつつ、形のあるものをつくっていくことにやりがいを感じています。

ものすごい熱さ！

完成

つる職人がつくったつるをつけて完成です。



完成

南部鉄器の歴史

南部鉄器の二大生産地として奥州市水沢区、盛岡市が知られています。水沢でなべや釜がつくられ始めたのは藤原清衡がこの地方を治めていた平安後期(今からおよそ950年前)のころです。一方、盛岡(南部藩)では、1659年に第2代藩主の南部重直が京の釜師を南部藩の「御釜師」として召しかかえたのが始まりです。岩手県は砂鉄、良質の粘土や砂などの原材料が入手しやすかったために、現代まで継続・発展しています。

現代の生活にもマッチする南部鉄器

南部鉄器の製品は従来の黒や茶色の鉄びん、急須だけでなく、カラフルで新しいデザインの急須もつくられ、日本だけでなく、ヨーロッパ、アメリカ、アジアなどでも購入され、使われています。さらに、様々な調理器具や食器、装飾品など、現代の生活に合う製品が開発、提供されています。



伝統工芸品づくりに関わる職人たち

大量生産の安い製品がたくさん出回っているなか、1個1個、たんねんに手づくりで製品をつくっている職人たちがいます。伝統工芸をささえる職人たちの声を聞いてみましょう。

なんぶてつき 南部鉄器

岩鑄^{いわちゅう}に入って、5年になります。元々手作業や物づくりに興味があり、高校卒業後はインテリア関係の仕事に就いていました。しかし伝統工芸がやりたくてその仕事をやめ、職業安定所で南部鉄器にめぐり合い、すぐにこの世界に入りました。一人前になるのは10年かかると言われています。厳しい世界ですが、自分の好きなことだから、苦になりません。最近はカラフルな急須^{きゅうす}もあり、海外で人気ですが、国内の若い人たちにもっと興味を持ってほしいですね。



株式会社 岩鑄 | よしだしんや 吉田真也さん

岩鑄は110余年の歴史を持つ南部鉄器メーカーです。昭和30年代、いち早く海外への販売^{はんばい}を始めたり、カラフルな急須をつくるなど、南部鉄器のパイオニア的存在です。



岩鑄のシンボル ジャンボ鉄びん(高さ1m50cm 重さ350kg)



いわや どうたんす 岩谷堂筆筒

平成10年に入社し、伝統工芸士の資格を持っています。たんすを組み立てるまでの木地加工^{きじ}が中心です。岩谷堂筆筒の特徴である組み手加工^{くみて}*は様々あり、まだまだ覚えることがたくさんあります。最近うれしいのは、会社の会長の仕事の手伝いをさせてもらえることです。会長に毎回新たな技術を教えてもらっています。どんな依頼^{いらい}が来ても引き受けることができるようになりたいと思っています。「努力すれば夢は実現する」ことをみなさんにも知ってもらいたいです。

*組み手加工 板と板を組み合わせることで、岩谷堂筆筒では鉄のくぎなどは使わず、みぞをつかってそこに板をはめ込む技術が多く用いられる。



美しく、じょうぶで、何十年も使えます。



有限会社 藤里木工所 | きくち たかし 菊池崇志さん

藤里木工所は、「木地加工」「うるしめり」「彫金」の三つの全工程を一貫して自社で行っています。ケヤキの木目を生かした、品質の高い岩谷堂筆筒を製作しています。

じょうぼう じぬり 浄法寺塗

ものづくりをやってみたくて考え、仕事をやめて浄法寺塗を始めました。始めてから「何にも知らなかった」と気づきました。地元^{じもと}にうるしがあることは知っていましたが、それがどう採られて、漆器^{しつぎ}がどうつくられているのか深く考えたことはなかったからです。

漆器に興味を持ってもらえなければ、知ってもらうこともできず、使ってもらうこともできません。この仕事をしていることで、友だちなど周りの人が浄法寺塗を気にしてくれるようになりました。「使ってみようかな」のきっかけになれることは、とてもうれしいことです。



滴生舎 | みすみひろみ 三角裕美さん

滴生舎は、二戸市の直営施設で、浄法寺塗をふくめ県内外の浄法寺塗を使った漆器を展示・販売しつつ、浄法寺塗の伝統を受け継ぐ人材を育成しています。



浄法寺塗は普段使いの器が多いのが特徴です。



ひでひらぬり 秀衡塗

26歳のときに家業^{さい}をつぎました。それから13年目、今はオーダーを受けて、自分で見本^{けんぼん}をつくることもありますが、それ以上にお客さんとつくり手のつなぎ役としての役割が大きくなっています。

お客さんは、秀衡塗を知りたい、欲しい、集めたい、使いたいという方々です。店に来てくれた方々の希望に応えることで伝統技法が伝えられていく、そういう仕組みをつくりたいと思っています。自分の思い描くことを仕事にできなかつたら、人生もつたいないですからね。



秀衡塗はうるしで描いた草花の文様と金箔が特徴です。



有限会社 翁知屋 | ささきゆうや 佐々木優弥さん

翁知屋は江戸時代から続く秀衡塗の工房・店舗です。伝統工芸の継承だけでなく、伝統技法+最新技術で新しいものを生み出し、高い評価を得ています。